

平成 30 年度自然保護委員総会実施報告

平成 30 年度自然保護委員総会（第 42 回山岳自然の集い 中央大会）が、11 月 23 日（金・祝）～11 月 25 日（日）、県立小川げんきプラザで、22 都府県から 75 名を集め開催した。今回の開催は常任委員などからなる 20 名の実行委員会制で運営された。開会に先立って、参加都府県の自然保護委員長を集めた委員長会議も開催し、総会の前哨とした。第一日目には、開会式、総会（委員会事業報告）と基調講演を、第二日目にはセッション 1（都道府県活動報告）とセッション 2（パネル討議）が行われた。第 3 日目にはオプションとして視察登山を行った。

（第一日目）

13:20 から開会となり、冒頭に行われた主催者挨拶に亀山健太郎副会長から、「トレラン等で登山以外に山の利用が多様化したことで、山の自然への負担が過大となり、持続可能な利用に向けた活動には相応の労力やその裏付けとなる経済負担が求められる。ここに集まっている方々もボランティアでやっていることと思う。それを長続きさせるには、我々はファンド等で資金を集める必要があるだろう。自治体や各種団体の理解を求めながら続けていきたい。また、若い人が入ってこない活動がとまってしまう。できるだけ、次世代へ繋げられるように活動を続けて行きたいと思う。意見を出し合って、次の世代に残せる活動を続けてもらいたいと思う。」と期待感を込めた挨拶を行った。

引き続き、松隈自然保護委員長から、「今総会のテーマの『未来につなごう、みどり豊かな山の自然』を強調して、集まった方々の意見交流を通して、複雑化する山の環境問題に対し、打開策を模索頂き、活動の輪を広げていって頂きたい。」とした。

さらに、開催地の小川町から高窪剛輔副町長の歓迎の挨拶を頂き、田中文男顧問、坂口三郎顧問からそれぞれ自然保護活動の激励の言葉を頂き、開会式を閉じた。

開会式の後、清水武司氏（秩父山岳連盟会長から）から「武甲山 頭部を落とされ、皮削がれ無残な山容をさらし続ける山」を演題として約 1 時間の講演を拝聴。セメント産業の採掘で大きく掘削され続けて山容が激しく変化した武甲山の事情と、そこに生き続ける自然について、地元の登山愛好家の目で見つめてきたことを、熱い感慨を込めて語られた。

次いで、日山協自然保護常任委員会の事業報告、本年度から適用となった新規程に基づく委員会の体制、自然保護指導員の登録状況のそれぞれについて説明、総会議事を終えた。

（第二日目）

午前中行ったセッション 1 において、参加都府県の夫々から 1 年間の活動報告が行われた。22 都府県から、自然保護活動やその動向が熱く語られた。

ついで、午後行われたセッション 2 のパネル討議では、①次世代育成の実例と課題（パネル：増田 修 常任委員）、②山岳トイレについて（パネル：田上 正敏 常任委員）、③登山道問題について（パネル：岡田 博之 専門委員）、④希少動植物の保全（パネル：小林 貞幸 常任委員）を取り上げた。

「次世代育成の実例と課題」では、子供達の自主性の重点とした自然の中での活動プログラムの重要性が説かれた。「山岳トイレについて」では、日山協作成の「置き去りにしないで山のトイレゴミ」と題するパンフを引用して携帯トイレの利用促進をパネルから提示、北海道（利尻・知床・大雪のトイレの事情）や東京から奥多摩小屋廃止に伴うトイレ問題の実情を報告。「登山道問題について」では、巻機山や飯豊連峰や伯耆大山の再生事情を話題に挙げた。また、ストックのゴムキャップの功罪についても触れた。「希少動植

物の保全について」では、長野からライチョウの保護のボランティア活動状況、山梨での希少植物の保護活動状況を話題に挙げた。

(第三日目)

希望者のオプションとして、武甲山と大霧山の視察登山を行った。前者では、武甲山表参道往復で昨日の講演の復習を実地体験した。大霧山では、疲弊した登山道の状況を視察した。全員無事下山し、総会の全日程を終了した。(自然保護委員長 松隈記)

